

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	開業助産師が考える「待つお産」のとらえ方				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	池田 美音
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	太田 尚子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	池田 美音

講演題目	開業助産師が考える「待つお産」のとらえ方
------	----------------------

**研究の目的、成果及び今後の展望**

**研究目的**

本研究の目的は、開業助産師が考える「待つお産」のとらえ方、「待つお産」に関連する助産ケアの実践知を明らかにすることである。本研究では、分娩を取り扱う開業助産師が考える「待つお産」のとらえ方と助産ケアの実践知を明らかにすることにより、不必要な医療介入の減少、満足な出産の提供、健やかな育児への貢献へ寄与する一資料とする。

**成果および今後の展望**

わが国における出産は、99.5%が病院・診療所で行われており、正常な経過をたどる妊産婦を扱う助産所における出産は、わずか0.5%である。出産の医療化が進む一方で、助産所で受けるケアは、病院・診療所と比べて、妊娠・分娩・産褥期のどの期間においても満足度が高いことが先行研究により明らかにされている。女性の妊娠、出産体験とその影響については多くの研究により明らかにされており、豊かな出産体験を得ることは、母親役割の受容について肯定的になり、育児不安や困難感が減少し、子どもの行動改善につながるといわれている。中でも、助産所のような家庭的な出産環境は、病院出産と比較して医療介入が少なく、女性の出産満足度を高めることが科学的根拠として示されている。また、助産所で従事する開業助産師は、出産を生理的現象としてとらえ、女性の持つ産む力と胎児が生まれてくる力を引き出すケアを実践していることが明らかにされている。

開業助産師の助産ケアについて、いくつかの文献で「待つ」と表現されており、「待つお産」について、先行研究では、産婦、児の予備力に負荷をかけないように注意深く見守ること、産婦の産む力と児の生まれる力を信頼することが待つということにつながるとされている。また、助産師が女性のペースを尊重した待つ姿勢や寄り添う助産ケアは、女性の肯定的な出産体験となることも明らかになっている。助産ケアの場面において「待つお産」は、女性の豊かな出産体験において重要な視点であることが示されている。しかし、「待つお産」に焦点を当てた研究は少なく、開業助産師が「待つお産」をどのようにとらえているか、「待つお産」にするために必要な助産ケアの実践知について明らかにした研究は見当たらなかった。

本研究は、2024年3月に研究倫理審査委員会にて承認されており（番号5-44）、今後は、機縁法を用いて分娩を取り扱う開業助産師をリクルートし、「待つお産」のとらえ方、「待つお産」に関連する助産ケアの実践知についてインタビュー調査を実施予定である。